

臨床分子病態検査学講座

Clinical Laboratory Medicine

教授	北島 勲	Isao Kitajima
助教授	大塚 稔久	Toshihisa Ohtsuka
助手	仁井見英樹	Hideki Niimi

著 書

- 1) 北島 勲：重金属ならびに関連蛋白.標準臨床検査医学(猪狩淳, 中原一彦編集, 医学書院,東京, 233-238, 2006
- 2) 北島 勲：流れがわかる実践検査マニュアル上巻(検査の基礎知識, 検査概要)(北島勲監修), メディカルレビュー社, 東京, 1-235, 2006
- 3) 北島 勲：流れがわかる実践検査マニュアル下巻(臓器別疾患に対する検査の流れ)(北島勲監修), メディカルレビュー社, 東京, 10-495, 2006
- 4) 小澤哲夫, 北島 勲：活性化プロテイン C レジスタンス, 血栓症ナビゲーター(池田康夫, 内山慎一郎, 後藤信哉, 重松宏, 半田誠編), メディカルレビュー社, 東京, 102-103, 2006.

原 著

- 1) Deguchi-Tawarada M, Inoue E, Takao-Rikitsu E, Unoue M, Kitajima I, Ohtsuka T, Takai Y: The active zone protein CAST is a component of conventional and ribbon synapses in mouse retina. J. Comp. Neurol. 495: 480-496, 2006
- 2) Wang J, Tokoro T, Higa S, Kitajima I: Anti-inflammatory Effect of Pitavastatin on NF- κ B Activated by TNF- α in Hepatocellular Carcinoma Cells. Biol. Pharm. Bull. 24: 634-639, 2006
- 3) Matsui K, Sugimori K, Motomura H, Ejiri N, Tsukada K, Kitajima I: PEA3 cooperates with c-Jun in regulation of HER2/neu transcription. Oncology Reports. 16: 153-158, 2006.
- 4) Inoue E, Mochida S, Takagi H, Higa S, Deguchi-Tawarada M, Unoue M, Yao I, Takeuchi K, Kitajima I, Setou M, Ohtsuka T, Takai Y: SAD: a novel presynaptic kinase associated with synaptic vesicles and the active zone cytomatrix that regulates neurotransmitter release. Neuron 50: 261-275, 2006.
- 5) Inoue E, Deguchi-Tawarada M, Takao-Rikitsu E, Inoue M, Ohtsuka T, Takai Y: ELKS, a protein structurally related to the active zone protein CAST, is involved in Ca-dependent exocytosis from PC12 cells. Gene Cells 11: 659-672, 2006
- 6) Lansbergen G, Grigoriev I, Mimori-Kiyosue Y, Ohtsuka T, Higa S, Kitajima I, Demmers J, Galjart N, Houtsmuller AB, Grosveld F, Akhmanova A: CLASPs attach microtubule plus ends to the cell cortex through a complex with LL5 β . Dev. Cell.11: 21-32, 2006
- 7) Fujioka S, Hamazaki K, Itomura M, Huan M, Nishizawa H, Sawazaki S, Kitajima I, Hamazaki T: The effects of eicosapentaenoic acid-fortified food on inflammatory markers in healthy subjects-A randomized, placebo-controlled, double-blind study. J. Nutr. Sci. Vitaminol.52: 261-265, 2006
- 8) Higa S, Tokoro T, Inoue E, Kitajima I, Ohtsuka T: The active zone protein CAST directly associates with ligand of Numb protein X. Biochem Biophys Res Commun.354: 686-692, 2007
- 9) 尾川智美, 谷みね子, 川島猛志, 大門良男, 北島 勲: Point of Care Testing (POCT)導入を目指した可溶性フィブリンモノマー複合体(SFM C)全血測定法の検討. 日本臨床検査自動化学会誌 30: 727-731, 2006
- 10) 北島 勲: 可溶性フィブリン(SF)とフィブリンモノマー複合体(GMC). 日本検査血液学会雑誌 7: 470-477, 2006

総 説

- 1) 北島 勲: 検体検査ピットフォール. 医報とやま 1409: 10-11, 2006.
- 2) 北島 勲: 桌上電子顕微鏡. 富山市医師会会報 424: 6-8, 2006.
- 3) 北島 勲: 臨床化学の視点によるアルツハイマー病最前線. 臨床化学 35: 320-321, 2006.
- 4) 大塚稔久: 私が名付けた遺伝子, アクティブゾーンのメインキャスト CAST 実験医学 24: 875-877, 2006.
- 5) 大塚稔久, 井上英二: 神経細胞の極性形成を司る SAD キナーゼは神経伝達物質の放出を制御する. 細胞工学 25: 776-777, 2006.

- 6) 大塚稔久：神経シナプスアクティブゾーンの構造と機能 生化学 78: 979-986, 2006.
- 7) 仁井見英樹, 北島 勲：細胞内シグナル伝達解析の臨床検査現場への展開 . Medical Technology 34: 123-122, 2006.
- 8) 尾川智美, 北島 勲：可溶性フィブリン . 新しい臨床検査・未来の臨床検査 . 検査と技術 34 : 1099-1100 , 2006.

学会報告

- 1) Kitajima I, Sugimori K: Bone morphogenic protein-2 requires phosphorylation of NF- κ B p65 and nuclear accumulation of IKK- α in chondrocyte differentiation and survival. 2006 Keystone Synposia Conference. NF- κ B: 20 years on road from biochemistry to pathology. 2006, 3, Banff, Canada.
- 2) Sugimori K, Motomura H, Kitajima I, Matsui K, Kimura T: The relationship between BMP-2 and PI3K/Akt-NF- κ B activation pathway in chondrogenesis. 52nd Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society , 2006, 3, Chicago, USA.
- 3) Niimi H, Pardali K, Heldin C-H, Moustakas A: Notch signaling is necessary for epithelial growth arrest by TGF-beta. 7th TGF-beta meeting, 2006, 5, Uppsala, Sweden.
- 4) Hanzawa K, Hayashi J-I, Nakajima T, Kitajima I, Tsuchida K: Economy class syndrome (venous thromboembolism) in middle Niigata prefecture earthquake 2004. 8th Asia Conference on Disaster Medicine (APCDM)-Global Collaboration for Disaster response-, 2006, 11, Tokyo, Japan
- 5) 北島 勲：検査部の意識改革 . 富山県臨床衛生検査技師生涯教育セミナー . 2006, 1, 富山.
- 6) 北島 勲：血栓症の急性期を捉える凝固分子マーカー・フィブリンモノマー複合体 . フォーラム富山「創薬」第 18 回研究会 . 2006, 2, 富山.
- 7) 北島 勲：SF と FMC . 第 7 回日本検査血液学会学術集会テクニカルセミナー . 2006, 7, 東京.
- 8) 北島 勲：次世代臨床化学のために今すべきこと：人材育成 , 医師教育の立場から , 第 25 回日本臨床化学夏期セミナー , 2006. 8, 札幌.
- 9) 北島 勲：医療に質の向上と患者中心の医療を目指した検査部のマネジメント . 第 25 回日本臨床検査医学会東海・北陸支部例会 . 2006, 9, 内灘.
- 10) 北島 勲：医療の質の向上と検査部存在価値を高める新しい検査システム導入ストラテジー . 第 4 5 回中部医学検査学会ランチョンセミナー , 2006, 9, 津.
- 11) 北島 勲：転写因子研究の視点から見た臨床検査医学の魅力 . 第 1 回病態情報解析学セミナー . 2006, 10, 熊本.
- 12) 北島 勲：臨床検査の未来を切り開く新しい検査シンボウム：病院検査室で実践できる分子病態検査法開発 (転写因子活性化検査の分子病態検査法開発) . 第 53 回日本臨床検査医学会学術集会. 2006, 11, 弘前.
- 13) 北島 勲：膠原病の症状と診断 . 第 1 回膠原病支援ネットワーク総会医療講演会 . 2006, 11, 金沢.
- 14) 北島 勲 . 宮崎良一 , 梅原久範：若年膠原病と妊娠出産 . 第 1 回膠原病ネットワーク総会ワークショップ , 2006, 11, 金沢.
- 15) 北島 勲：転写因子 NF - B から斬る分子病態 . 第 3 回富山大学病院病理部セミナー . 2006, 2 富山.
- 16) 大塚稔久：神経細胞の極性形成を司る SAD キナーゼの構造と機能 . 日本分子生物学会 2006 フォーラム , 分子生物学の未来 . 2006, 12, 名古屋.
- 17) 大塚稔久 神経終末アクティブ・ゾーンの形成と機能における SAD キナーゼの役割 . 第 29 回日本神経科学学会大会. 2006, 7, 横浜.
- 18) 大塚稔久：SAD キナーゼによる神経伝達物質放出の分子機構 . 生理学研究会シナプス可塑性の分子基盤. 2006, 6, 岡崎 .
- 19) 山岸萌子, 森田未香, 多賀由紀子, 坂本純子, 吉田郁子, 大門良男, 北島 勲：マイクロスキャン Rapid plus パネルを用いた菌血症の迅速診断報告の試み . 第 45 回日本臨床検査医学会・東海北陸支部総会 . 2006, 3, 浜松.
- 20) 野手良剛, 扇谷晶子, 森田未香, 多賀由紀子, 坂本純子, 吉田郁子, 大門良男, 仁井見英樹, 北島 勲：Real-time PCR 法を用いた迅速な敗血症起因菌同定システム構築の検討 . 第 45 回日本臨床検査医学会・東海北陸支部総会 . 2006, 3, 浜松.
- 21) 尾川智美, 谷みね子, 川島猛志, 大門良男, 北島 勲：フィブリンモノマー複合体 (FMC) と可溶性フィブリン (SF) の乖離状況と臨床的意味 . 第 45 回日本臨床検査医学会・東海北陸支部総会 . 2006, 3, 浜松.
- 22) 所 崇, 別府秀幸, 森口茂樹, 塩田倫史, 福永浩司, 堀 悦郎, 上野照子, 小野武年, 西条寿夫, 大塚稔久, En Li, 北島 勲：クロマチンリモデリング分子 ATRX 発現低下マウスの記憶・学習障害 . CREST 第 3 回脳の機能発達と学習メカニズムの解明領域内研究報告会 . 2006, 3, 大阪.
- 23) 北島 勲, 山口桂司, 尾川智美, 谷みね子：SF・FMC 試薬間における乖離検討と各検査の有用性について . 第 6 回

TTM (Thrombosis & Thrombolysis Markers Forum) . 2006, 3, 東京

- 24) 榛沢和彦, 土田桂蔵, 北島 勲: 新潟県中越地震被災者患者循環器外来患者の DVT と血液凝固マーカーについて . 第 6 回 TTM (Thrombosis & Thrombolysis Markers Forum) . 2006. 3, 東京.
- 25) 元村 拓, 仁井見英樹, 杉森一仁, 大塚稔久, 木村友厚, 北島 勲: 未分化間葉系細胞の Growth Arrest Specific 6 を介する軟骨分化調節機構 . 第 24 回日本骨代謝学会学術集会. 2006, 7, 東京.
- 26) 仁井見英樹, 野手良剛, 扇谷晶子, 北島 勲: 富山大学附属病院遺伝子検査室開設に伴う先天性血液凝固異常症解析状況 . 第 2 回北陸血栓止血セミナー. 2006, 7, 金沢.
- 27) 扇谷晶子, 野手良剛, 岸田みか, 大門良男, 仁井見英樹, 北島 勲: アミノ酸側鎖フェニル基の有無が FV 蛋白機能に影響を与えることが解明できた新規先天性第 V 因子欠乏症 (Phe190Ser) . 第 7 回日本検査血液学会学術集会. 2006, 7, 東京.
- 28) 吉田 慧, 高倉理恵, 尾川智美, 扇谷晶子, 川島猛志, 谷みね子, 桑原卓美, 大門良男, 榊 久乃, 野村恵子, 金兼弘和, 北島 勲: 赤芽球系細胞の増加を伴った若年性骨髄単球性白血病 (JMML) の 1 症例 . 第 3 1 回北陸臨床病理集談話会. 2006, 8, 富山.
- 29) 吉田郁子, 山岸萌子, 森田美香, 坂本純子, 野手良剛, 大門良男, 平島小百合, 北島 勲: 日立卓上電子顕微鏡 TM-1000Miniscope の使用経験 . 第 3 1 回北陸臨床病理集談話会. 2006, 8, 富山.
- 30) 細谷孝子, 佐竹伊津子, 成瀬理恵, 延野真弓, 林 史郎, 原田健右, 北島 勲, 道具伸浩: 頸動脈エコーで診断に苦慮する巨大血栓様構造物を認めた一症例 . 第 3 1 回北陸臨床病理集談話会. 2006, 8, 富山.
- 31) 佐竹伊津子, 細谷孝子, 成瀬理恵, 延野真弓, 林 史郎, 原田健右, 北島 勲: 意識消失発作を伴った肺塞栓血栓症の経過報告 . 第 3 1 回北陸臨床病理集談話会. 2006, 8, 富山.
- 32) 柴 則子, 角田美鈴, 多賀由紀子, 上野智浩, 横田 綾, 大門良男, 北島 勲: PhD システム IFA モジュールを用いた抗核抗体検査 (Hep-2) 測定の基礎的検討 . 第 3 1 回北陸臨床病理集談話会. 2006, 8, 富山.
- 33) 北島 勲, 原田健右, 市毛由希子, 酒井千樹: 卓上自動検査機器を用いた臨床化学に関する医学部学生実習への応用 . 第 46 回日本臨床化学年会 . 2006, 9, 東京.
- 34) 北島 勲, 只野重太郎: テーマは「臨床検査の原点は診察室に有り ~ どのような医師を育てるか ~」. 日立製作所パーソナル・ヘルスケアベンチャーカンパニー・セミナー . 2006, 9, 東京.
- 35) 奥田忠行, 北島 勲, 福永壽張晴: 自動血液ガス分析装置 Roche 社 OMNIS およびラジオメーター社 ABL800 における検討 . 第 38 回日本臨床検査自動化学会大会. 2006, 10, 神戸.
- 36) 柴 則子, 角田美鈴, 上野智浩, 大門良男, 北島 勲: EVOLIS を使用した PIVKA-II 短時間測定 of 基礎的検討 . 第 38 回日本臨床検査自動化学会大会. 2006, 10, 神戸
- 37) 桑原卓美, 谷みね子, 尾川智美, 高倉理恵, 扇谷晶子, 上野智浩, 川島猛志, 大門良男, 北島 勲: 多項目自動血球分析装置 XE-2100 を用いた破碎赤血球測定の有用性について . 第 38 回日本臨床検査自動化学会大会. 2006, 10, 神戸.
- 38) 仁井見英樹, 北島 勲, 野手良剛: Real-time PCR を用いた迅速な敗血症起因菌同定システムの構築 . 第 38 回日本臨床検査自動化学会大会. 2006, 10, 神戸.
- 39) 仁井見英樹, 林 史郎, 酒井伸也, 南澤 潔, 嶋田豊, 北島 勲: 脈診・証とカオス解析の相関について(第 2 報) . 平成 18 年度第一回科学技術振興調整費「漢方「脈診」診断法のカオス解析と科学化」成果検討会 . 2006, 11, 富山.
- 40) 奥田忠行, 北島 勲, 福永寿晴: 富山県における血液ガス分析コントロールサーベイ基準値を外れた原因の検討 . 第 53 回日本臨床検査医学会学術集会. 2006, 11, 弘前.
- 41) 谷みね子, 淵上映子, 山口桂司, 榛沢和彦, 林 純一, 土田桂蔵, 北島 勲: 新潟中越地震被災者における経時的凝血分子マーカーの変化 . 第 53 回日本臨床検査医学会学術集会. 2006, 11, 弘前.
- 42) 仁井見英樹, 野手良剛, 扇谷晶子, 尾川智美, 北島 勲: 遺伝子検査室開設に伴う遺伝子検査診断システム構築の意義とその解決すべき問題点 . 第 53 回日本臨床検査医学会学術集会. 2006, 11, 弘前.
- 43) 桑原卓美, 上野智浩, 川島猛志, 吉田慧, 尾川智美, 上野由美, 高倉理恵, 横田 綾, 角田美鈴, 谷みね子, 柴 則子, 大門良男, 北島 勲: 経費削減を目的とした生化学免疫分析システムの構築とその導入効果について . 第 53 回日本臨床検査医学会学術集会. 2006, 11, 弘前.
- 44) 吉田郁子, 森田美香, 山岸萌子, 坂本純子, 野手良剛, 大門良男, 平島小百合, 北島 勲: 日立卓上顕微鏡 TM-100 Miniscope を用いた細菌画像について . 第 53 回日本臨床検査医学会学術集会. 2006, 11, 弘前.
- 45) 宮林千鶴子, 安村 敏, 多葉田祥子, 道野淳子, 江幡和美, 西野主眞, 北島 勲: 新任看護師への安全な輸血の取り扱いのための教育について . 第 24 回日本輸血学会北陸支部総会 . 2006, 11, 福井.
- 46) 道野淳子, 多葉田祥子, 西野主眞, 宮林千鶴子, 江幡和美, 安村 敏, 北島 勲, 山谷明子: 抗 Di^b を有する不適合

妊娠の一例．第 24 回日本輸血学会北陸支部総会．2006, 11, 福井.

- 47) 原田健右, 北島 勲, 吉村直樹, 三崎拓郎, 渡邊綾佳, 市田落子, 宮脇利男: ワーファリンコントロール良好も血栓弁を繰り返す単心室の人工弁置換術後 3 歳児男児．第 4 回北陸 D I C 研究会. 2006, 11, 金沢.
- 48) 鈴木俊輔, Singhirunnunsom Pattama, 山岡昇司, 北島 勲, 済木育夫, 櫻井宏明: HTLV-I Tax のよる恒常的 T A K 1 活性化とその細胞内シグナル機構における役割．分子生物学会 2006 フォーラム, 分子生物学の未来．2006, 12, 名古屋.
- 49) 所 崇, 比嘉 進, 北島 勲, 大塚稔久: マウス神経筋接合部におけるアクティブゾーン蛋白質 CAST/ELKS の局在．分子生物学会 2006 フォーラム, 分子生物学の未来．2006, 12, 名古屋.
- 50) Higa S, Inoue E, Tokoro T, Kitajima I, Ohtsuka T: The active zone protein CAST directly associates with the ligand Numb. 分子生物学会 2006 フォーラム, 分子生物学の未来．2006, 12, 名古屋.
- 51) 原田健右: 蛋白, アミノ酸代謝の一般検査．第 28 回 NST 勉強会. 2006, 7, 富山.
- 52) 原田健右: 低リン血症と Refeeding Syndrome. 第 33 回 NST 勉強会. 2006, 12, 富山.

その他

- 1) 北島 勲: 分子病態解析法を用いた東洋医学診断法解明．上原記念生命科学財団研究報告集 19: 65-67, 2005.
- 2) 北島 勲: 第 18 回研究会報告．フォーラム富山「創薬」News No6: 6-7, 2006.
- 3) 大塚稔久: 神経回路のメカニズムを分子レベルで解明．実業之富山 No8: 40-42, 2006.